

淀川水系流域委員会殿

平成26年11月30日

「関西のダムと水道を考える会」

(代表) 野村東洋夫

利水容量 1890 万 m³ の転用法について

「淀川水系水利用検討会」の3つの検討項目の内の項目3（3、淀川水系における既存水資源開発施設の活用に関する事項）について、私達はこの検討会構成機関に対し、「活用可能な利水容量 1890 万 m³ の治水転用」と題する意見書（資料—1）を提出しています。ご一読下さいますようお願い致します。

因みにこの意見書の要点は

“「既存水資源開発施設の活用」とは、大阪・京都などの大幅な水余りにより、既存4ダム（高山・青蓮寺・比奈知・日吉）で余剰状態にある利水容量（計 1890 万 m³）をどのように活用（転用）するか、という意味です。

しかし淀川水系においてはこれを異常渇水対策やダム湖の堆砂対策に転用する必要はなく（対策済み）、近年の豪雨多発傾向や昨年の台風18号の降雨状況を考えれば、これを淀川の治水対策に転用すべきです。”

「淀川水系水利用検討会」構成機関各位

平成26年11月25日

「関西のダムと水道を考える会」

(代表) 野村東洋夫

「活用可能な利水容量」1890万 m³ の治水転用

「淀川水系水利用検討会」の検討事項「3、淀川水系における既存水資源開発施設の活用に関する事項」について、私達の意見を述べます。

A, 要旨

- ① 既存水資源開発施設の「活用可能な利水容量」は1890万 m³ に上る。
- ② これを異常渇水対策に転用する必要が無いことは既に述べた通り。
- ③ これを堆砂対策に転用する必要も無い。
- ④ 気候変動による豪雨多発傾向や、平成25年台風18号の降雨状況を考えれば、これを淀川の治水対策に転用すべき。

B, 個別説明

① の説明

近年の水需要の減少により、大阪・京都など京阪神地域の上水道は大幅な水余り状態となっていますが、このことを端的に示すのが第1回検討会配布資料（資料4）p.1で、他の用途に転用可能な利水容量が4ダム合計で1890万 m³ もあることを示しています。

高山ダム	7,600
青蓮寺ダム	6,700
比奈知ダム	1,400
日吉ダム	3,200
計	<u>18,900 千 m³</u>

※因みに、これの利水者別内訳は、私達の質問に対する近畿地方整備局の回答によれば別紙（資料A）の通り。

② の説明

淀川水系において新たな異常渇水対策が必要ないことは、私達が下記の2つの意見書で既に明らかにしています。

- ・(淀川水系) 渇水調整方法の提案と要望 (H26.10.27)
- ・「非常渇水」への対応 (H26.10.30)

③ の説明

各ダムの定期報告書によれば、堆砂率は次の通りです。

	(調査年度)	(経過年数)	(堆砂率)
高山ダム	H21年	40年	59%
青蓮寺ダム	H22年	40年	51%
比奈知ダム	H24年	15年	35%
日吉ダム	H22年	14年	11%

ダム完成後の経過年数と比べて堆砂率が計画を上回っているのは、木津川水系の高山・青蓮寺・比奈知ダムですが、これら3ダムの堆砂については川上ダムの長寿命化容量（既設ダムの堆砂除去のための代替補給容量）で対応することになっています。また、日吉ダムは堆砂率が計画を下回っていますから、特段の対策は不要です。以上のことから「活用可能な利水容量」1890万 m³ を堆砂対策に転用する必要はありません。

④ の説明

（資料B）は近畿地方整備局作成「平成25年9月 台風18号洪水の概要」p.15に示されている表ですが、これによれば台風18号の際、枚方地点については計画降雨量（261mm/24h）を超える降雨（269mm/24h）が記録されています。気候変動による近年の豪雨多発傾向は明らかであり、しかも大戸川ダム計画が凍結されていることも考慮すれば、「活用可能な利水容量」1890万 m³ は早期に淀川の治水対策に転用すべきです。

（以上）

(1890 万 m³ の利水者別内訳)

資料 A

「活用可能な利水容量」 単位:m³

	大阪広域水道 企業団	大阪市	京都府	尼崎市	計
高山ダム	3,320,000	4,093,000	—	186,000	7,599,000
青蓮寺ダム	2,918,000	3,600,000	—	163,000	6,681,000
比奈知ダム	—	—	1,400,000	—	1,400,000
日吉ダム	2,726,000	—	493,000	—	3,219,000
計	8,964,000	7,693,000	1,893,000	349,000	<u>18,899,000</u>

※尼崎市は活用可能容量について定量化できない旨の回答であったため、
同市が水源を有する高山ダム・青蓮寺ダムの利水容量全量が仮に計上
されている。

○ この資料は当会が近畿地方整備局から入手したものである。

資料 B

地点	計画降雨量	河川整備計画 (S28年T13号)	H25年T18号	計画高水 (m ³ /s)	河川整備計画 目標流量 (m ³ /s)	H25年 T18号 (m ³ /s)
枚方	261mm/24h	222mm/24h	269mm/24h	12,000	10,700	9,500
宇治	165mm/9h	161mm/9h	193mm/9h	1,500	1,500	1,300
加茂	253mm/12h	186mm/12h	207mm/12h	6,200	4,900	3,900
島ヶ原	238mm/9h	196mm/9h	204mm/9h	3,700	2,800	2,300
羽東師	247mm/12h	174mm/12h	229mm/12h	5,300	3,600	3,500
請田	208mm/9h	174mm/9h	208mm/9h	3,500	2,500	2,500

※ 近畿地方整備局作成「平成25年9月台風18号洪水の概要」p.15